

中期目標の達成状況に関する評価結果

(中期目標期間終了時評価)

九州工業大学

令和5年3月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
-------	---

(法人の達成状況報告書から転載)

評価結果

《概要》	5
------	---

《本文》	6
------	---

《判定結果一覧表》	21
-----------	----

—《本文》における特記事項の冒頭「○」「●」について—

- ：第3期中期目標期間4年目終了時評価において抽出されている特記事項※
- ：第3期中期目標期間終了時評価において、4年目終了時評価結果を変えうるような顕著な変化として、追加で抽出されている特記事項

※ 新型コロナウイルス感染症下における対応については、4年目終了時評価結果を変えうるような顕著な変化の有無にかかわらず、令和2、3年度における取組や実績等を更新している。

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

九州工業大学（以下、「本学」という）は、開学以来の理念である「技術に堪能なる士君子」の養成を継承し、我が国の産業発展に資する人材を社会に輩出するとともに、学術の高度化と新技術の創出を通して地域や我が国の産業の発展に貢献してきた。

本学はこの伝統と独自性を重視し、世界的水準の工学系総合大学の実現を長期目標に掲げて、第1期及び第2期中期目標・中期計画期間において、学長のリーダーシップにより、透明性の高い人事制度や全学的な施設マネジメント等をいち早く導入し、教育と研究を支えるガバナンス強化を迅速かつ着実に進めてきた。

一方では、新しい世界観や価値観が生まれる現代社会では、高等教育機関としての大学に対し、多様化・複雑化する社会的要求への対応が強く期待されている。そのため、グローバル時代に相応しい大学の機能強化を行い、上記の社会的責務を果たすため、以下の基本的な目標を掲げる。

【教育】

グローバル化が進む社会で活躍できる工学系人材が習得すべき能力を「多様な文化の受容力、コミュニケーション力、自律的学習力、課題発見・解決力、エンジニアリング・デザイン力」からなるグローバル・コンピテンシーとして定義し、それらを育成する学部・大学院教育を実施し、技術の革新や社会変化にも対応できる高度な専門力と豊かな教養を備えたグローバル・エンジニアを養成する。

【研究】

本学の強みや特色ある研究分野に関連する研究活動、若手研究者に対する支援を強化すること等により、本学の研究力を高め、グローバル化する産業構造の中で、地域及び我が国の産業の国際競争力を強化する新技術と新産業分野（イノベーション）の創出に寄与する。

【社会連携・社会貢献】

地域の政策課題等の解決に積極的に参画する社会連携活動のほか、本学の教育・研究活動を積極的に公開するとともに、知的資源や研究成果を活用して、地域や我が国の産業界が必要とする社会人教育等、工学系大学としての特徴を活かした社会貢献活動を実施する。

【国際化】

海外大学等との連携を強化し、国際共同研究を発展させるほか、学生及び職員の相互派遣を拡充するとともに、教育と研究のグローバル化に対応した教育システムや教育研究環境を整備する。

1. 本学は、明治40年に4年制の工業専門学校「私立明治専門学校」として設立された。その後、昭和24年に国立九州工業大学と変遷し、広く日本の産業化と社会発展に貢献すべき技術者の養成にかかわる高等教育機関として発展を重ね、2学部、2大学院学府、2大学院研究院、1大学院研究科から構成された工学系大学として最先端の教育と研究を行っている。
2. 社会が求めるグローバル・コンピテンシー（GCE: Global Competency for Engineer）を有する高度技術者を育成するため、6年一貫による教育プログラム、グローバル教養科目の開設、社会との協働を含む高次のアクティブ・ラーニング、学生同士の協働学習、国際的通用性のある認定プログラムなどを積極的に実施している。
3. ミッションの再定義で明らかにした環境関連工学、航空宇宙工学、高信頼集積回路、情報通信ネットワーク、ロボティクス等の重点分野について、分野横断的な研究による研究拠点化を推進するための「重点研究プロジェクトセンター」（令和2年度から先端基幹研究センター）及び、産業界との共同により優れた研究成果の創出を目指す「共同研究講座等制度」を

中心に、研究の質向上と研究成果の社会実装を進めている。

4. 教育の国際化及び研究の国際競争力強化のため、マレーシア及びタイに設置した海外拠点の活用や高度な教育研究連携を行っている海外協定校との連携を中心に、学生の海外派遣、留学生の受入、国際共同研究を推進している。

[個性の伸長に向けた取組 (★)]

- グローバル・コンピテンシー (GCE) を有する高度技術者を育成するため、体系的な6年一貫教育を行うグローバル・エンジニア (GE) 養成コースを開設し、登録を開始した。(関連する中期計画1-1-1-1)
- 多文化受容や語学教育等、入学から卒業までの体系的な教養教育を全学的に行う教養教育院を設置し、全学統一のグローバル教養科目及び習熟度別の英語科目を開設した。(関連する中期計画1-1-1-2)
- 専門知識を活用した課題解決を目的とし、解が一つではない問題に取り組むPBLやモノづくりの創成授業など、「高次のアクティブ・ラーニング」科目を産業界等と連携して実施した。(関連する中期計画1-1-1-3)
- 学修成果等の可視化と学生自身による学修成果の振り返りのため、第2期に開発した「学修自己評価システム」を機能強化・改善するとともに、授業科目ごとに可視化された成績分布や自己評価との相関等、教育成果を可視化する教員用のコースポートフォリオシステムを導入した。更に、教育の可視化や質保証、学生の成長に関する意見交換、相互連携等の推進を目的とした「eポートフォリオによる学修成果の可視化コンソーシアム」を設立した。(関連する中期計画1-1-1-5、中期計画1-2-3-3、1-3-1-1)
- クロスアポイントメント制度、共同研究講座等制度、海外研修プログラム、サバティカルリープ制度の活用、及び海外経験者の雇用により多様な人材を確保するとともに、部局(工学部、工学府などの教育研究組織の総称)を超えた人材の配置を検討する「人財活性化推進会議」を設置し、戦略的な人員配置及び活性化のための基本計画を策定し、実施した。(関連する中期計画1-2-1-1、1-2-1-2)
- GCE養成のため第2期に整備を開始した「Learning Complex:複合的学習環境」(アクティブ・ラーニングを支援する教室、エンジニアリング・デザイン力を養成するデザイン工房等)を、全キャンパスに設置した。(関連する中期計画1-2-2-1)
- 学習支援サービス(Moodle)の機能拡充、学習教育センターによる遠隔講義のサポート体制整備、遠隔講義が可能な講義室の拡充等によりICT利用環境を向上させ、更に、講義アーカイブ等の教育コンテンツを用いて授業時間外の自主学習を推進する「ICT活用科目」を整備した。(関連する中期計画1-2-2-2)
- 第2期にJABEE認定を受けた全学部、全学科の教育プログラムについて、平成30年度改組による新学科を除く全学科が認定を更新しており、新学科についても令和4年度に受審予定である。(関連する中期計画1-2-3-1)
- 全学的なFDを推進するため全学組織である学習教育センターにFD促進専門部会を設置し、新任教育職員を対象とした2年間50時間程度に及ぶ体系的なFD研修プログラムを開発するなど、FD環境による教育の継続的な改善を実施した。(関連する中期計画1-2-3-2)
- GCE教育における学生の海外派遣による学修成果を可視化し、海外派遣プログラムの改善に活かすため、「GCEポートフォリオシステム」を開発・導入した。(関連する中期計画1-3-1-1)
- 附属図書館ラーニングコモンズサポーター、ALSA(アクティブ・ラーニング・ステューデント・アシスタント)等、学生の能動的な学修を支援する学生スタッフを配置し、様々な企画等を通じた学生同士の協働学習の支援を行った。(関連する中期計画1-3-1-2)
- 本学独自の九州工業大学基金により、授業料支援、令和元年度のノートパソコン必携化(BYOD:Bring Your Own Device)実施に伴う、経済的困窮によりノートパソコンを準備で

- きない学生への支援を実施した。(関連する中期計画 1-3-2-1)
- GCE 教育推進のため、明専寮(学生寮)において、教養教育院所属教員による教養教育を含む「グローバルリーダー教養教育プログラム」を年 12 回程度実施した。また、国際研修館においては、日本人学生と留学生との「国際協働学習」を年 8 回程度実施した。(関連する中期計画 1-3-2-1)
 - 正課教育で学んだ知識やスキルを課外活動に活用することで GCE の要素である「エンジニアリング・デザイン能力」を養成することを目的に、「学生プロジェクト」制度を実施し、本学の学内資金に加え、企業からの支援も受け、学生への費用支援を実施した。(関連する中期計画 1-3-2-2)
 - 支援が必要な学生の早期発見・早期支援の開始を図るため、「学生支援データベース」を構築し、単位取得が少ない学生や欠席が増える傾向の学生について、学生総合支援室及び保健センターによる状況確認、所属学部学科への状況確認依頼を行った。(関連する中期計画 1-3-2-3)
 - アドミッション・オフィスの設置、更に、入学者選抜、高大接続の推進及び理工系(STEM)分野における教育支援・連携を図るため「高大接続・教育連携機構」設置による機能強化を行い、A0 入試を導入した。更に、令和 2 年度入試から国際バカロレア入試を導入した。(関連する中期計画 1-4-1-2)
 - 産学連携推進のため、地域金融機関との連携による技術相談の促進、本学主催の新技术説明会や技術交流会(キューテックコラボ)による発信・情報交換を行った。また、イノベーションジャパンや JST 新技术説明会、北九州 TLO との連携による展示会等で特許シーズや研究成果の発信を進め、本学の技術を組み込んだ製品化に繋げた。(関連する中期計画 2-1-1-1、2-1-1-3)
 - 国際共同研究推進のため、海外の先導的な研究室との共同研究を目的とした博士研究員雇用枠の設置、台湾科技大学、マレーシア・プトラ大学(UPM)等とのジョイントリサーチプログラム、国際合同シンポジウム等の開催、国際共著論文に対する英文校正や論文掲載費補助支援を行った。(関連する中期計画 2-1-1-2)
 - 研究者の多様化による研究活動活性化のため、企業の出資により学内に研究組織を設置する「共同研究講座等制度」を利用して企業から研究者を受け入れたことに加え、海外経験のある研究者、若手研究者、女性研究者等の採用拡大を行った。また、若手研究者支援を目的とした、メンター配置、研究費支援等を実施した。(関連する中期計画 2-2-1-1、2-2-1-2)
 - 分野融合により新領域を形成し革新的な研究活動を行うことを目的とした「戦略的研究ユニット」をイノベーション推進機構(令和 2 年度からオープンイノベーション推進機構)内に設置し、研究費の支援に加え、イノベーション推進機構所属 URA による助成金斡旋や外部資金申請書の査読など、重点的な支援を実施した。(関連する中期計画 2-2-1-3)
 - 研究力向上のため、研究者に第 3 期中期目標期間(6 年間)の研究計画調書を作成させ、令和元年度に中間報告、令和 3 年度に最終報告を行った。また、論文等の増加を目的とした研究支援事業や、インセンティブとして論文数に応じた研究業績評価配分を実施した。(関連する中期計画 2-2-1-4)
 - 研究の質向上のため、研究に専念できる時間の確保、国際共同研究の増加を目的とした海外派遣プログラム、サバティカルリブ制度を実施した。(関連する中期計画 2-2-1-5)
 - 地域企業等と連携し地域経済の活性化に資する人材を育成するため、北九州地域の産学官連携による地域連携型インターンシップ制度や企業研究・交流会を実施した。また、デバイス設計開発やブロックチェーン、データサイエンスなど、社会ニーズに即した社会人の学び直しのための講座を実施した。(関連する中期計画 3-1-1-1)
 - 地元の自治体との定期的な協議による地域貢献のため、飯塚市、飯塚病院、公益財団法人飯塚研究開発機構との医工学連携、公益財団法人北九州産業学術推進機構との連携による研

究交流会や人工知能応用の実証実験等を実施した。(関連する中期計画3-1-2-1、3-1-2-2)

- 内閣府「地方大学・地域産業創生交付金事業」に、北九州市が提案し本学が参画する「革新的ロボットテクノロジーを活用したものづくり企業の生産性革命実現プロジェクト」が採択され、(株)安川電機と連携した革新的なロボットの開発に向けた研究を進めるとともに、令和3年度に北九州市立大学と連携した「ロボティクスシンセシス&マネジメントコース」を設置した。(関連する中期計画3-1-2-2)
- マレーシア・プトラ大学(UPM)内に設置した本学の海外拠点MSSCに続き、令和元年度にタイ・キングモンクット工科大学北バンコク校(KMUTNB)内に「KMUTNB-KYUTECH コラボレーションサテライトオフィス」、令和2年度に中国・揚州大学内に「YZU-Kyutech ジョイントラボラトリー」を設置した。(関連する中期計画4-1-1-1)
- 海外交流協定校との連携実績を詳細な視点で数値化し、高度な教育・研究連携に資する調査と評価を実施した。この調査結果をもとに、総合値の高い協定校について、更なる連携強化のための活動経費支援を行う「国際連携高度化支援事業」を実施した。(関連する中期計画4-1-1-1)
- 海外派遣促進のため、全学的なクォーター制導入、海外派遣プログラムによる単位付与、学内資金に加えJASSOやEU助成金「エラスムス+」等の外部資金による経済支援を実施した。(関連する中期計画4-1-1-2)
- 「宇宙工学国際コース」等、全学で5つの英語のみで修了可能なコースを設置し、多様な国から留学生受入を行うとともに、海外交流協定校からの受入プログラムやJSTさくらサイエンスプログラムによる留学生の短期留学生受入を拡充した。(関連する中期計画4-1-1-3)

[戦略性が高く意欲的な目標・計画(◆)]

- 教育における本学の強み・特色は、教育の質保証システムへの取組み及び大学連携、産学連携活動による教育力強化である。本学の関連教育機能を強化するため、大学の教育と産業界の要請や人材育成の実態を情報共有できる仕組みづくり、及び人材育成教育に産業界が参画できる仕組みづくりとその実践を行い、教育の社会的な質保証システムのための全国的な教育拠点を形成する。
(関連する中期計画1-1-1-4、1-2-3-3、1-3-1-1)
- 本学の強みや特色ある研究分野に関連する研究活動、若手及び女性研究者に対する支援強化や多様な人材の採用等により、本学の研究力を高め、グローバル化する産業構造の中で、地域及び我が国の産業の国際競争力を強化する新技術と新産業分野(イノベーション)の創出に寄与する。
(関連する中期計画2-1-1-1、2-1-1-2、2-1-1-3、2-2-1-1、2-2-1-4)
- 海外大学、海外に展開する企業等との多様で高次の連携関係に基づくグローバルな教育研究活動の基盤を整備し、それを活用することにより、学生の海外での学習、就業体験の機会を増大させ、国際共同研究を活性化させるとともに、学内においては、英語により修了可能な大学院国際コースを拡充するなどにより海外から受け入れる学生数の増大を行うなど、教育研究のグローバル化を推進する。
(関連する中期計画1-1-1-1、2-1-1-2、2-2-1-5、4-1-1-1、4-1-1-2、4-1-1-3)

評価結果

《概要》

第3期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、九州工業大学の中期目標（大項目、中項目及び小項目）の達成状況の概要は、以下のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）判定の分布				
		【5】 特筆すべき実績を 上げている	【4】 優れた実績を上げ ている	【3】 達成して いる	【2】 十分に達成してい るとはいえない	【1】 達成して いない
I 教育に関する目標	【3】 達成している					
1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【4】 上回る成果が 得られている		1			
2 教育の実施体制等に関する目標	【3】 達成している		1	2		
3 学生への支援に関する目標	【3】 達成している			2		
4 入学者選抜に関する目標	【3】 達成している			1		
II 研究に関する目標	【4】 上回る成果が 得られている					
1 研究水準及び研究の成果等に関する目標	【4】 上回る成果が 得られている		1			
2 研究実施体制に関する目標	【3】 達成している			1		
III 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	【3】 達成している					
	なし			2		
IV その他の目標	【5】 顕著な成果が 得られている					
1 グローバル化に関する目標	【5】 顕著な成果が 得られている	1				

※ 大項目「I 教育に関する目標」及び「II 研究に関する目標」においては、4年目終了時に実施した学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を反映している。

《本文》

I 教育に関する目標（大項目1）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

（判断理由）「教育に関する目標」に係る中期目標（中項目）4項目のうち、1項目が「中期目標を上回る成果が得られている」、3項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（教育）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

（1）教育内容及び教育の成果等に関する目標（中項目1-1）

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

（判断理由）「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 1-1-1	判定		判断理由
<p>社会が求めるグローバル・コンピテンシー（GCE：Global Competency for Engineer）を有する高度技術者を育成するため、これまでの専門分野の教育に加えて、多文化を受容できる教養と語学力を習得するための教育課程を編成する。</p> <p>また、学生の能動的な学習活動を促すための教育を実施する。さらに、産業界で活用できる高度専門知識と研究力を培う教育課程を編成する。</p>	【4】	中期目標を達成し、優れた実績を上げている	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「グローバル・エンジニア教育の推進」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
	<p>《特記事項》</p> <p>（優れた点）</p> <p>○ グローバル・エンジニア教育の推進</p> <p>グローバルに活躍する技術者に求められるコンピテンシー（GCE：Global Competency for Engineer）の5つの要素（多様な文化の受容、コミュニケーション力、自律的学習</p>		

	<p>力、課題発見・解決力、デザイン力)を定め、その育成を目的として、5つの柱(海外学習体験(Study Abroad)、海外就業体験(Work Abroad)、グローバル教養教育、語学教育、留学生との協働学習)を定めたGCE教育を推進している。また、6年一貫教育プログラムにより、GCEの5つの能力を段階的に育成するグローバル・エンジニア(GE)養成コースを学内外に積極的に広報し、大学院進学者に占めるコース受講者数の割合は、令和元年度には91.7%となっている。(中期計画1-1-1-1)</p> <p>○ 情報工学府の産学連携による教育</p> <p>需要創発コース(情報工学府)は、企業、大学、公共団体等から依頼を受け、企業等のシステム開発等と同様の過程をチームプロジェクトとして経験することで、実践的な技術力、問題解決力、コミュニケーション能力を身に付ける教育を行っている。学生とメンター教員でグループを編成し、実際の課題に対し、学生自らが要件定義、仕様書作成、プロトタイプを経て製品を作り上げ、最終的にクライアントへプレゼンテーションを行っている。(中期計画1-1-1-4)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 高次のアクティブ・ラーニング科目の導入</p> <p>専門知識を活用した課題解決を目的として、解が一つではない問題に取り組むPBLやモノづくりの創成授業等を高次のアクティブ・ラーニング科目と定義しており、各部局において科目の導入を進めた結果、KPIに掲げる20科目を超え、令和元年度には34科目に達している。(中期計画1-1-1-3)</p> <p>○ カーロボAI連携大学院の他大学との連携による教育</p> <p>カーロボAI連携大学院(生命体工学研究科)では、毎年、全国から高等専門学校生を20名程度インターンシップで受け入れ、連携大学(北九州市立大学、早稲田大学)と共同で総合実習等を実施している。受講生からは「座学では学べない、問題点を発見しその課題を自ら解決する一連のスキームはとても貴重な経験となった」「他大学や他地域の学生と学習する機会はとても新鮮で良かった」等の意見が出ている。(中期計画1-1-1-4)</p>
--	---

(2) 教育の実施体制等に関する目標 (中項目 1-2)

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 3項目のうち、1項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-2-1	判定		判断理由
<p>百年余にわたって築き上げてきた教育研究活動について、ミッションの再定義を通して明らかになった強みと特色を活かして、教育研究活動を効果的に実施するため、多様な人材を戦略的に配置する。</p>	<p>【3】</p>	<p>中期目標を達成している</p>	<p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p>
	<p>《特記事項》</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 戦略的な教員配置 教育職員の採用において、機械的に退職教員の後任補充を行うのではなく、役員と部局長で構成される人財活性化推進会議において、全学的な戦略に基づく教育職員の採用、全学的な人材配置の最適化の視点からの検討に基づく部局間異動を実施している。(中期計画 1-2-1-1)</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症下の教育 新型コロナウイルス感染症による影響下においても、学生の学習機会を確保するため、遠隔教育の形態、リモート教育ツール・システム等の工夫だけでなく、教員に対するFDにも積極的に取り組んでいる。学生や教員アンケートもいち早く実施し、さらなる教育改善にフィードバックしている。また、これまでの教育実施体制等の見直しと高度化に向けての恒常的な取組やノウハウが、今回のコロナ禍での迅速で的確な対応に生かされている。さらに、遠隔授業で作成された約400科目のデジタルコンテンツを、新型コロナウイルス感染症収束後の社会人教育に活用することも計画している。</p>		

小項目 1-2-2	判定		判断理由
グローバル人材の養成に適した教育・学習環境を整備するとともに、ICTを活用した多様な教育・学習の機会を提供し、それらの利活用を推進する。	【3】	中期目標を達成している	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ 学習支援の機能強化 e-ラーニングによる学習支援サービス (Moodle) の機能強化を進めた結果、アクセス数は平成 27 年度の 94.9 万回から令和元年度には 250.1 万回へと約 2.5 倍の増加となっており、課題提出等の活動数も平成 27 年度の 13.2 万回から令和元年度には 37.4 万回へと約 2.8 倍に増加している。(中期計画 1-2-2-2)		
小項目 1-2-3	判定		判断理由
国際的通用性のある技術者を育成する教育の質を保証するため、教育システムの国際基準に則った認定を更新し、産業界の要請等を取り入れるとともに、FD (Faculty Development : 教育職員が授業方法等を改善するための組織的取組) 活動による教育の継続的な改善を実施する。	【4】	中期目標を達成し、優れた実績を上げている	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「全学部・学科での JABEE 認定」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
	《特記事項》		
	(優れた点) ○ 全学部・学科での JABEE 認定 第 2 期中期目標期間に日本技術者教育認定機構 (JABEE) の認定を受けた全学部、全学科の教育プログラムについて、認定の更新を実施している。新規認定年度から、途切れることなく継続して認定を受けており、第三者機関から保証された高い教育の質を維持している。(中期計画 1-2-3-1) (特色ある点) ○ 学修成果の可視化コンソーシアムの設立 教育の可視化や質保証、学生の成長に関する情報交換や議		

	論、意見交換、相互連携等を目的として「eポートフォリオによる学修成果の可視化コンソーシアム」を発起人として設立し、令和元年度時点で13教育機関、4企業が参加している。(中期計画 1-2-3-3)
--	---

(3) 学生への支援に関する目標 (中項目 1-3)

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-3-1	判定		判断理由
正課教育、正課外教育及び課外活動を通じた学修プロセスを重視し、学生によるアクティブ・ラーニングの支援及び学修成果の可視化を行うことにより、学生の能動的な学修を支援する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	≪特記事項≫ (特色ある点) ○ 海外派遣での学修成果の可視化 GCE教育の取組の中でも特に注力している学生の海外派遣について、その学修成果を可視化するため、GCEポートフォリオシステムを開発・導入している。海外派遣の特色である、事前教育、海外派遣、成果報告、事後教育まで一連のパッケージ化された教育プログラムに則して、その学修成果を可視化している。(中期計画 1-3-1-1) ○ ポートフォリオシステムによる学習支援 ポートフォリオシステムを導入し、学生に学修プロセスの振り返りを促す機会を増やしている。学修自己評価システムについて有用な利用方法を学内に周知し、同システムから授業評価アンケートを回答できるよう改修・試行したり、学生プロジェクト等の正課外活動の目標設定や振り返りを記録するよう改修し、正課教育、正課外教育及び課外活動等の大学生活全般を記録するシステムへ発展させている。(中期計画 1-3-1-1)		

小項目 1-3-2	判定		判断理由
大学の資源を活用して、学生の生活支援を行うほかに、学生の課外活動への民間企業等からの支援を拡充する。 また、障がいのある学生等に対する効果的な支援を実施する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	(特色ある点)		
	○ 学生プロジェクトの推進 学生が正課教育で学んだ知識やスキルを活用して取り組む正課外のプロジェクトに対し、大学が資金を支援する学生プロジェクト制度を実施している。大学の資金だけでなく、企業4社から、平成28年度から令和元年度までの4年間に総額約1,200万円の寄附を得ており、プロジェクトに取り組む学生団体に支援を実施している。(中期計画1-3-2-2)		
	○ クラウドファンディングの環境整備 令和元年度に、クラウドファンディングの環境を整備し、学生プロジェクトに取り組む2つの学生団体が、クラウドファンディングで寄附募集を行い、目標金額の2倍以上の寄附を得ている。(中期計画1-3-2-2)		

(4) 入学者選抜に関する目標 (中項目 1-4)

【評価結果】 中期目標を達成している (判断理由) 「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。
--

小項目 1-4-1	判定		判断理由
本学の強み、特色、社会的役割を踏まえ、大学教育を通じてどのような力を身に付けさせるかを明確にし、入学者選抜において高等学校教育等で身に付けた能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	(優れた点)		
	● 多面的な評価を取り入れた入学者選抜の導入 学びの振り返り、課題解決型記述試験、学びの計画書な		

	<p>ど、6種の手法を組み合わせた多面的な評価を取り入れた「総合型選抜Ⅰ」を令和2年度から導入している。この取り組みは、探究的な活動を通じて身につく能力・資質等の評価を適切に活用しているグッドプラクティスとして、内閣府の総合科学技術・イノベーション会議が令和4年4月に発行する大学入試の事例集に掲載されることとなった。(中期計画1-4-1-2)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 総合型入試の導入</p> <p>令和元年度学部入試からA0入試(令和3年度入学者選抜より「総合型選抜Ⅱ」に名称変更予定)を導入し、卒業生らの協力のもと、大学入試センター試験成績により理科・数学の基礎学力を担保した上で、他者との協働のプロセスを見る「グループワーク」、既存の知識を元に問題解決に向けて応用する力を見る「課題解決型記述問題」、自らのこれまでを客観視して入学後の学びへとつなげる態度を評価する「高校入学後の活動に関する記述」等を実施している。(中期計画1-4-1-2)</p> <p>○ 学生募集活動の改善</p> <p>学生募集活動では模試データ等も活用し、受験生の動向からの志願予測に基づき、早期に学生募集活動に反映させることが可能となっており、平成28年度入試時点で3.2倍であった志願倍率は令和元年度入試時点で3.7倍に上昇している。(中期計画1-4-1-3)</p>
--	--

Ⅱ 研究に関する目標（大項目 2）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

（判断理由）「研究に関する目標」に係る中期目標（中項目）2項目のうち、1項目が「中期目標を上回る成果が得られている」、1項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（研究）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

（1）研究水準及び研究の成果等に関する目標（中項目 2-1）

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

（判断理由）「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 2-1-1	判定		判断理由
ミッションの再定義で明らかにした環境関連工学、航空宇宙工学、高信頼集積回路、情報通信ネットワーク、ロボティクス等の重点分野の研究活動の強化により、先端的な研究を推進するとともに全国的な研究拠点としての活動を展開し、研究の質を向上させ、成果の社会への還元を促進する。	【4】	中期目標を達成し、優れた実績を上げている	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「ネットワーク活用による国際共著論文の増加」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
	《特記事項》		
	（優れた点） ○ ネットワーク活用による国際共著論文の増加 マレーシアに設置した海外教育研究拠点（MSSC）や海外研究機関との交流ネットワークを活用し、ジョイントリサーチ・プログラム、継続的な国際合同シンポジウム等の開催、海外の研究機関に在籍する卒業生との連携支援、英文校正、		

	<p>論文掲載費補助支援等を実施した結果、国際共著論文は令和元年度には平成 27 年度比 170%となる 268 件に増加している。(中期計画 2-1-1-2)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 産学共同研究の推進</p> <p>産学共同研究の新たな制度として、共同研究講座制度と学術指導制度を導入している。大型の共同研究である共同研究講座等は令和元年度までに 11 件設置されている。学術指導制度も共同研究等に移行する前の技術指導やコンサルティングとして年々増加している。(中期計画 2-1-1-1)</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症に係る研究</p> <p>新型コロナウイルス感染症に関連した研究として、AI データサイエンスを活用した既存薬の他病気への効果予測や、ウイルスを減少させる光触媒の研究に取り組んでおり、新型コロナウイルスへの効果も含め、さらに研究を進化させようとしている。</p>
--	---

(2) 研究実施体制に関する目標 (中項目 2-2)

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「研究実施体制に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 2-2-1	判定		判断理由
特色ある研究活動の強化を行い、研究の質の向上を行うために、教育職員配置計画の見直しや若手教育職員の育成制度等の研究環境を整備する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	≪特記事項≫ (特色ある点) ○ 地方大学・地域産業創生交付金事業の実施 北九州市等と連携したプロジェクトが内閣府「地方大学・地域産業創生交付金」の事業に採択され、人工知能及びロボティクス分野における世界的な権威や、米国西海岸でのロボットベンチャー企業の起業者など、国際的にも著名な人材を招聘している。(中期計画 2-2-1-1) ○ SURE-Metrics を活用した予算配分 九州工業大学が開発した研究分野ごとに異なる論文生産性を考慮した分野別補正を行う SURE-Metrics を活用した評価により、各教育職員の論文数に応じた研究費予算の配分を実施している。(中期計画 2-2-1-4) ● マルチスケール化学による革新的光エネルギー・物質変換材料の創製ユニットの研究成果 令和2年度に製品化された光触媒コーティング剤スプレーは、新型コロナウイルスの不活化にも高い効果を発揮することが実証試験で明らかとなり、多くの自治体や企業等で採用されている。また、本製品に組み込まれた技術は、一般社団法人減災サステナブル技術協会の「防災・減災×サステナブル大賞」のグローバル賞優秀賞を受賞している。(中期計画 2-2-1-3)		

Ⅲ 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標(大項目3)

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標(小項目)2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

小項目 3-1-1	判定		判断理由
ものづくり基盤教育及び情報基盤教育を、自治体及び企業等との連携を図りつつ実施し、問題発見・課題解決型の人材育成を通して地域社会に寄与する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
			《特記事項》
			<p>(特色ある点)</p> <p>○ 社会人学び直しプログラムの開講 保有する技術や知見を生かして、デバイス設計、金型、ブロックチェーン、データサイエンスなど、社会のニーズに即した社会人学び直しプログラムを実施しており、情報工学部では、近年ニーズが高まっているブロックチェーンの基礎技術セミナーを地元 IT 企業等から講師を招いて開催する等、地域企業も参加している。(中期計画 3-1-1-1)</p> <p>● オンライン型講座導入による受講者数の増加 マイクロ化総合技術センターでは、社会人リカレント講座の一環として、クリーンルーム内で自らの手により MOSFET (金属酸化膜半導体電界効果トランジスタ) と簡単な論理回路を作製しながら半導体の微細加工技術の基礎を学ぶことができる「産学連携製造中核人材育成セミナー」を実施している。</p> <p>令和3年度には遠隔(オンライン)型の講座も導入し、対面型の講座では見ることができないアングルからの映像等を取り入れ、対面型と同等以上の教育効果が得られる内容で実施した結果、受講者が大幅に増加し、平成28年度に16万円であった受講料収入は、令和3年度には1,995万円となっている。(中期計画 3-1-1-1)</p>

小項目 3-1-2	判定		判断理由
産学官の連携強化により、地域課題の解決や地域産業の振興に貢献する。	【3】	中期目標を達成している	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	<p>(特色ある点)</p> <p>○ 産学官連携による事業の推進</p> <p>北九州市、民間企業及び公益財団法人北九州産業学術推進機構の連携による「革新的ロボットテクノロジーを活用したものづくり企業の生産性革命実現プロジェクト」が内閣府「地方大学・地域産業創生交付金」に採択され、革新的なロボットの開発・事業化、連携大学院構想などの取組を推進している。(中期計画 3-1-2-2)</p>		

IV その他の目標（大項目4）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を上回る顕著な成果が得られている

(判断理由) 「その他の目標」に係る中期目標（中項目）が1項目であり、当該中項目が「中期目標を上回る顕著な成果が得られている」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) グローバル化に関する目標（中項目4-1）

【評価結果】 中期目標を上回る顕著な成果が得られている

(判断理由) 「グローバル化に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成し、特筆すべき実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 4-1-1	判定		判断理由
教育の国際化及び研究の国際競争力強化のために、海外拠点の活用を含む海外大学との連携の高度化を推進するとともに、海外派遣及び留学生を含む海外からの受入学生数を増加させる。	【5】	中期目標を達成し、特筆すべき実績を上げている	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「国際的な教育研究連携の高度化」、「海外派遣のプログラム整備と派遣者数の好実績」が優れた点として認められるなど「特筆すべき実績」が認められる。
	≪特記事項≫ (優れた点) ○ マレーシア・プトラ大学との連携強化 海外教育研究拠点（MSSC）において、マレーシア・プトラ大学との連携強化が著しく発展しており、平成28年から令和元年の学生交流は派遣・受入れを合わせて約780名となり、共同研究においては、平成28年から令和元年の4年間		

	<p>に 110 編以上の国際共著論文を発表しており、平均 FWCI は 1.16 (令和 2 年 7 月現在) となっている。(中期計画 4-1-1-1)</p> <p>○ 国際的な教育研究連携の高度化</p> <p>約 150 校の全交流協定校との交流・連携状況に関して、6 分野・11 カテゴリー・56 項目に及ぶ徹底した実績調査を毎年実施しており、連携実態のない交流協定校の整理を継続的に行いつつ、交流・連携が活発な協定校及び活発になる可能性が高い協定校との活動には組織的な経費支援を行い、国際展開を成長させている。(中期計画 4-1-1-1)</p> <p>○ 海外派遣のプログラム整備と派遣者数の好実績</p> <p>海外派遣プログラムの整備と広報、経済支援等の促進策の実施により海外派遣者数は年々増加し、日本人学生に占める海外派遣学生の割合は、「国立大学における教育の国際化の更なる推進について」フォローアップ調査によると、平成 29 年度実績において国立大学 3 位、平成 30 年度実績において国立大学 4 位となっている。(中期計画 4-1-1-2)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 海外派遣の推進</p> <p>GCE の 5 つの要素を涵養するための 5 つの柱のうち、「海外学習体験 (Study Abroad)」及び「海外就業体験 (Work Abroad)」について、学生の学年や専門分野に応じ、多層的なプログラムとして整備して実施している。Study Abroad では、平成 28 年度に海外未渡航あるいは海外派遣プログラム未参加の学生を対象とした First Step プログラムを開発・実施し、平成 29 年度からは更に大学院生を対象としたプログラムを開発・実施している。また、Work Abroad では、海外の日系企業での海外インターンシッププログラムを実施している。(中期計画 4-1-1-2)</p> <p>○ 留学生受入の推進</p> <p>英語のみで修了可能なコースの設置、シラバスの英語化により、留学生の受入体制が整備されるとともに、短期受入プログラムの拡充、モンゴル工学系高等教育支援事業 (MJEED) やアフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ (ABE イニシアティブ)、ダブルディグリープログラム (DDP) を活用した正規生の受入を推進しており、留学生の受入促進のためのプロモーション活動やリクルーティングも継続した結果、海外からの受入学生数を第 2 期中期目標期</p>
--	--

	間最終年度と比較して 25%以上増加させる目標に対して、第 2 期中期目標期間末の 457 名から令和元年度には 717 名と 56%の増加となっている。(中期計画 4-1-1-3)
--	---

《判定結果一覧表》

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定
中期目標(中項目)			
中期目標(小項目)			
中期計画			
大項目1 教育に関する目標	【3】	達成している 3.43 うち現況分析結果加算点 0.10	【3】
中項目1-1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【4】	上回る成果が得られている 4.00	【4】
小項目1-1-1 社会が求めるグローバル・コンピテンシー(GCE:Global Competency for Engineer)を有する高度技術者を育成するため、これまでの専門分野の教育に加えて、多文化を受容できる教養と語学力を習得するための教育課程を編成する。 また、学生の能動的な学習活動を促すための教育を実施する。さらに、産業界で活用できる高度専門知識と研究力を培う教育課程を編成する。	【4】	優れた実績を上げている 2.80	【4】
中期計画1-1-1-1(★)(◆) 【1】第2期に策定した6年一貫教育プログラムであるグローバル・エンジニア養成コースについて、平成28年度に進学希望者(3年次生)を対象として登録を開始する。大学院進学者に占める本コース受講者数の割合を、平成33年度までに60%以上とする。	【3】	優れた実績を上げている	【3】
中期計画1-1-1-2(★) 【2】第2期に設置した産学連携教育審議会等での審議内容を反映し、専門教育におけるコアカリキュラムを策定するとともに、全学的組織である教養教育院が主導してグローバル教養科目及び語学科目を開設する。	【2】	実施している	【2】
中期計画1-1-1-3(★) 【3】学生の自律的かつ能動的な学習活動を促すため、第2期に推進・実施したPBL(Project-Based Learning:課題解決型学習)授業やグループ学習などのアクティブ・ラーニングの教育課程への導入実績を踏まえ、第3期は、双方向(インタラクティブ)授業に対応した施設設備の一層の活用を推進するとともに、さらに、学部及び大学院において20科目程度を社会との協働を含む高次のアクティブ・ラーニング科目にする。	【3】	優れた実績を上げている	【3】
中期計画1-1-1-4(◆) 【4】第2期に策定したグローバル・コンピテンシーを有する高度技術者育成方針に基づき、産学連携教育審議会を活用し、教育高度化推進機構での審議を経て、既存プログラムの拡充を含めて、産業界との協働による教育プログラムを、5つ以上開設する。さらに、本プログラムの効果的実践事例等を、大学間連携、教育拠点形成により、幅広く展開する。	【3】	優れた実績を上げている	【3】
中期計画1-1-1-5(★) 【5】グローバル・コンピテンシー等の学修成果の可視化や、授業時間外の学習時間情報の収集、成績評価と自己評価の可視化を行い、学生による学修の振り返りを促す教育ツールとして、第2期に整備した学修自己評価システムの利用者の割合を80%以上とする。	【3】	優れた実績を上げている	【3】
中項目1-2 教育の実施体制等に関する目標	【3】	達成している 3.33	【3】
小項目1-2-1 百年余にわたって築き上げてきた教育研究活動について、ミッションの再定義を通して明らかになった強みと特色を活かして、教育研究活動を効果的に実施するため、多様な人材を戦略的に配置する。	【3】	達成している 2.50	【3】
中期計画1-2-1-1(★) 【6】教育研究活動を高度化するため、全学組織の最適化の観点から、学部等の改組を行うとともに、ミッションの再定義で示した重点分野である宇宙工学や高信頼集積回路等へ、戦略的に職員を配置する。	【3】	優れた実績を上げている	【3】

九州工業大学

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定
中期目標(中項目)			
中期目標(小項目)			
中期計画			
中期計画1-2-1-2(★) 【7】 クロスアポイントメント制度、共同研究講座等の制度を活用し教育職員の約30%を企業等経験者とし、また、国際公募やサバティカルリープ制度等により約20%を海外学位取得者・外国出身者・海外教育研究経験者とする。さらに若手教育職員の割合が16%程度となるよう、定年退職後のポストを活用した40歳未満の若手教育職員の採用を全学的に促進する。	【2】	実施している	【2】
小項目1-2-2 グローバル人材の養成に適した教育・学習環境を整備するとともに、ICTを活用した多様な教育・学習の機会を提供し、それらの利活用を推進する。	【3】	達成している	2.00 【3】
中期計画1-2-2-1(★)(*) 【8】 グローバル・コンピテンシー養成のための教育・学習環境として、第2期に整備を開始した「Learning Complex:複合的学習環境」(アクティブ・ラーニングを支援する教室、エンジニアリング・デザイン力を養成するデザイン工房等)を引き続き整備し、全キャンパスに設置する。さらに、利活用事例等の教育・学習成果をとりまとめ、学内外に広報するとともに、正課・正課外での施設利用件数等を増加させる。	【2】	実施している	【2】
中期計画1-2-2-2(★) 【9】 e-ラーニング支援システム等のICTを活用するための情報基盤環境を整備・充実し、講義資料、講義映像、課題等の教育資源の提供を可能にする。それにより、講義や説明会等の遠隔実施を促進するとともに、授業時間外の自主学習のための講義アーカイブ等の教育コンテンツを30科目以上整備し、配信する。	【2】	実施している	【2】
小項目1-2-3 国際的通用性のある技術者を育成する教育の質を保証するため、教育システムの国際基準に則った認定を更新し、産業界の要請等を取り入れるとともに、FD(Faculty Development:教育職員が授業方法等を改善するための組織的取組)活動による教育の継続的な改善を実施する。	【4】	優れた実績を上げている	2.67 【4】
中期計画1-2-3-1(★) 【10】 第2期にJABEE(日本技術者教育認定機構)認定を受けた全学部、全学科の教育プログラムについて、産学連携教育審議会等で得られた高度技術者育成に関する要請等に基づき、教育高度化推進機構にて「国際的技術者教育の水準」を満たすため、教育実施体制や教育課程等の教育システムを検討・改善し、各学科において、JABEE認定の更新を順次実施する。	【3】	優れた実績を上げている	【3】
中期計画1-2-3-2(★) 【11】 教育職員の教育力向上のため、新任教育職員や中堅教育職員を対象とした階層別研修や、アクティブ・ラーニングの実践方法等の教育方法に関する研修、学内外の講師によるワークショップ等、対象者や目的に応じた体系的なFD研修プログラムを開発し、実施する。	【2】	実施している	【2】
中期計画1-2-3-3(★)(◆) 【12】 国際的通用性のある技術者を育成するため、JABEE認定を受けた各教育課程の学習教育・到達目標について、蓄積された情報を学部、学科、授業科目単位で集約し教育成果の可視化・共有を可能にするように学修自己評価システムを強化し、学生の達成度や学修成果を可視化して、教育の質の向上のためのPDCAサイクルを確立する。 さらに、10以上の他大学や民間機関等が参画するコンソーシアムを立ち上げ、産学連携による教育の質保証のためのフレームワーク形成に向け中核的役割を果たす。	【3】	優れた実績を上げている	【3】
中項目1-3 学生への支援に関する目標	【3】	達成している	3.00 【3】
小項目1-3-1 正課教育、正課外教育及び課外活動を通じた学修プロセスを重視し、学生によるアクティブ・ラーニングの支援及び学修成果の可視化を行うことにより、学生の能動的な学修を支援する。	【3】	達成している	2.00 【3】
中期計画1-3-1-1(★)(◆) 【13】 学生自身が学修成果や経験について、気づきと振り返りができるようにするため、正課教育、正課外教育及び課外活動等の大学生生活全般を記録、蓄積するポートフォリオシステムを整備・導入する。	【2】	実施している	【2】

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
中期計画1-3-1-2(★) 【14】第2期に整備した附属図書館ラーニングコモンズサポーターとALSA(アクティブ・ラーニング・チューデント・アシスタント)等を活用し、正課外教育や課外活動において、学生によるアクティブ・ラーニングの支援やピア・ラーニング(学生同士の協働学習)を充実し、学生による学習支援活動を第2期と比較して増加させる。	【2】	実施している	【2】	
小項目1-3-2 大学の資源を活用して、学生の生活支援を行うほかに、学生の課外活動への民間企業等からの支援を拡充する。 また、障がいのある学生等に対する効果的な支援を実施する。	【3】	達成している	2.33	【3】
中期計画1-3-2-1(★) 【15】経済的に困窮している学生に対する入学科・授業料の支援とともに、優秀な学業成績を修めた学生を対象に、本学独自の奨学支援として第2期に整備した鳳龍奨学賞を改善しつつ継続実施する。また、グローバル・コンピテンシー教育等を行うために改修した学生寮等を活用し、経済面及び学習面での支援を実施する。	【2】	実施している		【2】
中期計画1-3-2-2(★) 【16】正課教育で学んだ知識やスキルを活用し、課外活動(正課外教育)を通してエンジニアリング・デザイン能力を養成することを支援するため、平成18年度に開始した学生創造学習支援プロジェクト事業に対する財政支援を継続する。さらに、プロジェクトの成果報告会に民間企業等からの外部評価員を加え、産業界の視点からの評価と助言・指導等を行う。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画1-3-2-3(★) 【17】障がいのある学生の修学支援や、心的に就学が困難となった学生の早期発見、早期支援のために、学生支援データベースの運用を開始し、支援事例の蓄積・検証によって支援方策や支援体制等を改善する。	【2】	実施している		【2】
中項目1-4 入学者選抜に関する目標	【3】	達成している	3.00	【3】
小項目1-4-1 本学の強み、特色、社会的役割を踏まえ、大学教育を通じてどのような力を身に付けさせるかを明確にし、入学者選抜において高等学校教育等で身に付けた能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価する。	【3】	達成している	2.33	【3】
中期計画1-4-1-1 【18】入学試験制度の改革に対応してアドミッション・ポリシー(入学者受入方針)を改定し、入学者に求める能力・意欲・適性とその評価等を公表する。	【2】	実施している		【2】
中期計画1-4-1-2(★) 【19】アドミッション・オフィスの企画に基づき、グローバル・コンピテンシー教育に相応しい人材を選別するAO型入試を実施する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画1-4-1-3 【20】第2期に構築した学務・入試・就職等のデータベースを活用したIR(インスティテューショナル・リサーチ)分析を入学者選抜方法等に活かす。	【2】	実施している		【2】

九州工業大学

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
大項目2 研究に関する目標	【4】	上回る成果が得られている	3.91 うち現況分析結果加算点 0.41	【4】
中項目2-1 研究水準及び研究の成果等に関する目標	【4】	上回る成果が得られている	4.00	【4】
小項目2-1-1 ミッションの再定義で明らかにした環境関連工学、航空宇宙工学、高信頼集積回路、情報通信ネットワーク、ロボティクス等の重点分野の研究活動の強化により、先端的な研究を推進するとともに全国的な研究拠点としての活動を展開し、研究の質を向上させ、成果の社会への還元を促進する。	【4】	優れた実績を上げている	2.67	【4】
中期計画2-1-1-1(★)(◆) 【21】第2期までに設置した重点プロジェクト研究センターの全国的な拠点活動の強化、産学共同研究の新たな制度の導入等により、第2期に比べて、知財共有に基づく連携活動数、民間機関等との共同研究の件数等を増加させるとともに、産学官連携活動に関与する教育職員の割合を50%以上とする。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画2-1-1-2(★)(◆) 【22】第2期に設置したマレーシアの海外教育研究拠点(MSSC)及び重点プロジェクト研究センター等が有する海外研究機関との交流ネットワークを活用して、国際的な研究拠点形成を推進し、国際共著論文数を第2期に比べて10%程度増加させる。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画2-1-1-3(★)(◆) 【23】知的財産の活用強化や研究成果及びシーズの積極的発信等により、産業界との連携を進め、10件程度の本学技術を組み込んだ製品化に貢献する。	【2】	実施している		【2】
中項目2-2 研究実施体制に関する目標	【3】	達成している	3.00	【3】
小項目2-2-1 特色ある研究活動の強化を行い、研究の質の向上を行うために、教育職員配置計画の見直しや若手教育職員の育成制度等の研究環境を整備する。	【3】	達成している	2.40	【3】
中期計画2-2-1-1(★)(◆) 【24】教育職員の約30%を企業等経験者、約20%を海外学位取得者・外国出身者・海外教育研究経験者とするとともに、若手教育職員の割合が16%程度となるよう、定年退職後のポストを活用した40歳未満の若手教育職員の採用を全学的に促進する。 また、新規採用する助教に対して、テニュアトラック制を適用するとともに、若手教育職員の育成のため研修制度を整備する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画2-2-1-2(★) 【25】第2期に設置した若手研究者フロンティア研究アカデミーの実績を活かして、次世代の研究プロジェクトを牽引する教育職員を育成する仕組みをつくる。	【2】	実施している		【2】
中期計画2-2-1-3(★) 【26】これまで実施してきた研究戦略経費の学内公募、研究活動のIR分析等を通じて、特色ある研究活動の掘り起しを行うとともに、部局を超えた組織的な研究ユニットを5件以上選定して、第2期に整備したイノベーション推進機構「戦略的研究推進領域」に設置し、「産学連携・URA領域」等が研究計画立案や外部資金獲得等を重点的に支援する。	【2】	実施している		【2】
中期計画2-2-1-4(★)(◆) 【27】大学全体の研究力向上のために、研究者による研究計画調書の作成を全学的に実施するとともに、研究者個々の研究分野等に応じて研究指標を確定し、一人当たりの論文数等の研究指標の平均値を第2期に比べて10%程度増加させる。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画2-2-1-5(★)(◆) 【28】研究の質の向上を目的として、研究に専念できる時間の確保や、国際共同研究の機会を増加するための教育職員の海外派遣プログラム及びサバティカルリープ制度を導入する。	【2】	実施している		【2】

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
大項目3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	【3】	達成している	3.00	【3】
	なし	—	—	なし
小項目3-1-1 ものづくり基盤教育及び情報基盤教育を、自治体及び企業等との連携を図りつつ実施し、問題発見・課題解決型の人材育成を通して地域社会に寄与する。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画3-1-1-1(★) 【29】地域経済の活性化に資する人材を育成するため、地域連携型インターンシップ事業の実施や、先端技術講習等による社会人の学び直し等、地域企業等と連携した取組を強化する。	【2】	実施している		【2】
小項目3-1-2 産学官の連携強化により、地域課題の解決や地域産業の振興に貢献する。	【3】	達成している	2.50	【3】
中期計画3-1-2-1(★) 【30】地方自治体と定期的に協議する体制を構築し、地域との協定等に基づく取組への貢献を拡充するとともに、地方自治体等の審議会等への職員の参画を拡充する。	【2】	実施している		【2】
中期計画3-1-2-2(★) 【31】産業界との連携強化による社会貢献を果たすため、地方自治体やその外郭団体、地元企業等と連携して組織する研究会や協議会等、地域産業界のニーズに対応する組織連携を10件以上、常に実施する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
大項目4 その他の目標	【5】	顕著な成果が得られている	5.00	【5】
中項目4-1 グローバル化に関する目標	【5】	顕著な成果が得られている	5.00	【5】
小項目4-1-1 教育の国際化及び研究の国際競争力強化のために、海外拠点の活用を含む海外大学との連携の高度化を推進するとともに、海外派遣及び留学生を含む海外からの受入学生数を増加させる。	【5】	特筆すべき実績を上げている	2.67	【5】
中期計画4-1-1-1(★)(◆) 【32】第2期に設置したマレーシアの拠点(MSSC)と合せて、3つ以上の海外教育研究拠点を整備するとともに、10以上の海外大学等と高度な教育研究連携を行う。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画4-1-1-2(★)(◆)(*) 【33】平成28年度から全学にクォーター制(4学期制)を導入するなど環境整備を行うとともに、海外派遣プログラムの単位化を進め、海外インターンシップ、海外研究活動、国際学会発表等の海外派遣又は留学生を含む海外からの受入学生との協働学習等への参加学生数の大学院修了者数に占める割合を、80%以上にする。	【2】	実施している		【3】
中期計画4-1-1-3(★)(◆) 【34】大学院教育において、英語での授業実施により修了可能なコースを学府・研究科に設置するほか、シラバスの英語化を進め、大学院生の10%以上が英語のみで修了できる体制を整備するとともに、学部・大学院の学生を対象としたサマープログラム等の短期受入プログラムを拡充することにより、留学生を含む海外からの受入学生数を第2期最終年度と比較して25%以上増加させる。	【3】	優れた実績を上げている		【3】

九州工業大学

※ 中期計画に表示されている記号が示す内容は、それぞれ以下のとおり。

- (★):「個性の伸長に向けた取組」に特に関連する中期計画(「法人の特徴」参照)
- (◆):文部科学省国立大学法人評価委員会に承認された「戦略的かつ意欲的な目標・計画」
- (※):新型コロナウイルス感染症による影響を特に考慮して分析・判定した中期計画

※ 「下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値」のうち、大項目「教育」「研究」の数値については、中項目の判定に使用した数値をそのまま大項目ごとに平均して算出し、その上で4年目終了時に実施した学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を行っている。

【教育】 達成状況評価

現況分析:「教育」

$$\left(\begin{array}{l} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「教育に関する目標」} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{l} \text{当該法人における} \\ \text{(I 教育活動の状況)、} \\ \text{(II 教育成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

【研究】 達成状況評価

現況分析:「研究」

$$\left(\begin{array}{l} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「研究に関する目標」} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{l} \text{当該法人における} \\ \text{(I 研究活動の状況)、} \\ \text{(II 研究成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

注1 現況分析は4段階判定となっており、【2】判定(相応の質にある)が基準となる判定のため、現況分析の教育または研究の全判定結果の平均値が2を上回る場合は加算、下回る場合は減算となる。

注2 現況分析結果の加算・減算に当たっては、達成状況の評価結果であることを考慮し、係数「0.5」を設定する。

なお、加算・減算後の数値は小数点第3位を切り捨て処理しているため、現況分析結果加算点と教育または研究に関する大項目における判定の平均値の合算値が一致しないことがある。